

広丘地区の変遷

広丘地区の各区は、堅石、郷原、野村が長享2年（1488）の古文書「諏訪社下社造営帳」によって、村としての存在が確認できます。（郷原は堅石の中に含まれていたと推察）

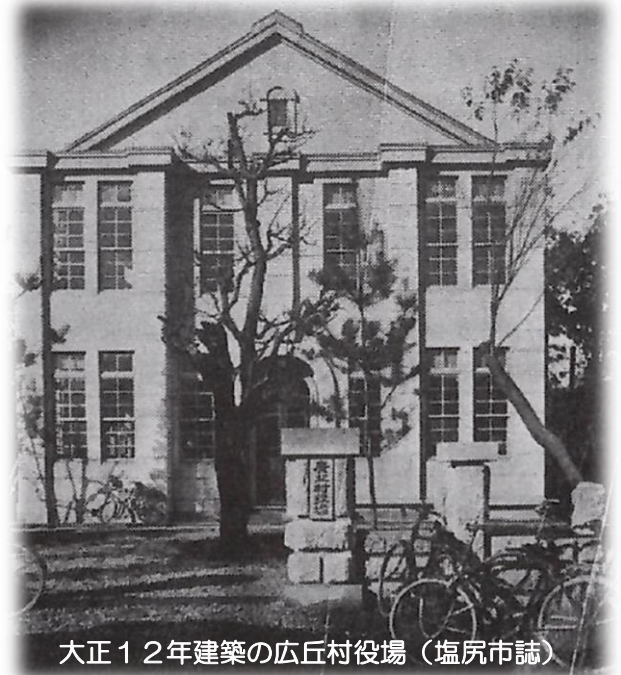
原新田については、寛永年間（1624～1644）に野村から独立したと推察され、寛永19年（1642）の古文書「松本御領分村々高附帳」で初めて村の名前が確認できます。

明治6年（1873）2月から筑摩県※が積極的に町村合併を促進し、塩尻市域では明治7年（1874）10月23日に広丘村、片丘村、宗賀村、洗馬村が誕生し、翌年、塩尻村、筑摩地村が誕生します。

当時の広丘村となった元の村は、原新田、堅石、郷原、野村、吉田、高出、村井、小屋の8カ村であり、役場が原新田に置かれるも「村域が広すぎる」「役場が遠い」「習慣の違い」などの理由によって、明治14年（1881）6月24日に元の8カ村へ分離してしまいます。

その後、明治21年（1888）「市政・町村制」の公布により、翌22年（1889）に原新田、堅石、郷原、野村、吉田、高出の6カ村が合併し、再度広丘村が誕生。昭和34年（1959）に塩尻町、片丘村、宗賀村、筑摩地村と合併して塩尻市大字広丘となり、平成6年（1994）に吉田地区、平成17年（2005）に高出地区が分区して、現在の広丘地区となっています。

※ 明治4年の廃藩置県により現在の長野県は筑摩県と長野県の2県体制となるが、明治9年8月21日には筑摩県が廃止され、長野県に統一



大正12年建築の広丘村役場（塩尻市誌）



昭和初期の広丘小学校校門